

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2020年7月3日

【四半期会計期間】 第49期第3四半期(自 2020年2月21日 至 2020年5月20日)

【会社名】 ケイティケイ株式会社

【英訳名】 ktk INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 青山 英生

【本店の所在の場所】 名古屋市東区泉二丁目3番3号

【電話番号】 (052)931-1881(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部長 青山 敏久

【最寄りの連絡場所】 名古屋市東区泉二丁目3番3号

【電話番号】 (052)931-1881(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部長 青山 敏久

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
ケイティケイ株式会社 東京支店  
(東京都品川区東五反田一丁目20番7号 神野商事第2ビル 5F)  
ケイティケイ株式会社 大阪支店  
(大阪市中央区南船場一丁目13番14号 南船場スクエアビル 4F)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第48期 第3四半期 連結累計期間	第49期 第3四半期 連結累計期間	第48期
会計期間		自 2018年8月21日 至 2019年5月20日	自 2019年8月21日 至 2020年5月20日	自 2018年8月21日 至 2019年8月20日
売上高	(千円)	12,573,530	12,698,630	16,699,053
経常利益	(千円)	302,303	332,792	314,945
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	207,879	255,116	216,237
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	171,528	223,837	165,387
純資産額	(千円)	3,074,972	3,099,075	3,068,831
総資産額	(千円)	8,380,662	8,990,933	7,952,753
1株当たり四半期(当期) 純利益	(円)	36.32	45.43	37.78
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	36.7	34.5	38.6

回次		第48期 第3四半期 連結会計期間	第49期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2019年2月21日 至 2019年5月20日	自 2020年2月21日 至 2020年5月20日
1株当たり四半期純利益	(円)	12.94	19.14

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 連結子会社である株式会社青雲クラウンの業績は、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第3四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節的変動があります。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動は以下のとおりです。

(サプライ事業)

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社青雲クラウンが、株式会社エス・アンド・エスの全株式を取得し子会社化(当社の孫会社化)したことにより、同社を連結の範囲に含めております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更があったのは以下の事項です。

なお、文中における将来に関する事項は、四半期報告書提出日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものです。

2019年12月以降中華人民共和国湖北省武漢市において新型コロナウイルス感染症の発生が報告されて以来、世界各地で患者発生報告が続いています。当社グループの事業活動に掛かる生産体制、物流体制、営業活動に支障が生じた場合、また、人的被害が拡大した場合には、当社グループの事業活動及び収益確保に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、オフィス用品の顧客への配送を運送会社に委託しています。運送会社の慢性的な人手不足、燃料費の高騰による配送料の価格の引き上げが発生した場合、当社グループの収益確保に影響を及ぼす可能性があります。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間(2019年8月21日～2020年5月20日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済活動の自粛等の影響により、景気が急速に悪化し、極めて厳しい経済状況となりました。今後も国内外の経済情勢に大きな影響を与えることが想定されることから、先行き不透明な状況となっております。

このような環境下において、前期事業計画を発展させた新たな事業計画「ktkイノベーションプランVer.2」を策定し、営業、生産、管理・経営、調達・物流の各部門に「未開拓市場への進出、自社製品の更なる拡販」「生産性向上、総原価削減、品質改善、最速開発」「リパクトナー生産、既存事業の拡大、工場発の売上貢献」「新規事業の具体化と社員の生産性・満足度の向上」「更なるコストダウンとサービスレベル向上」を戦略に掲げ、全社が一丸となって邁進してまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間は、消費税率引き上げによる一時的な駆け込み需要やWindows10への切り替えに伴う特需もあって事業計画「ktkイノベーションプランVer.2」は順調に進捗したものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響が一定程度あり、売上高は12,698,630千円(前年同四半期比1.0%増)となりました。

利益につきましては、売上高が増加したことに加え、前期事業計画に引き続き、製造コストと調達コストの削減を実現し、業務効率を向上させたことにより、営業利益は313,031千円(前年同四半期比12.6%増)、経常利益は332,792千円(前年同四半期比10.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は255,116千円(前年同四半期比22.7%増)となりました。

なお、連結子会社である株式会社青雲クラウンの業績は、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第3四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節の変動があります。

また、当社グループの事業は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,038,180千円増加し、8,990,933千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,040,128千円増加し、6,096,388千円となりました。これは、主に現金及び預金が189,947千円、受取手形及び売掛金が713,718千円、商品及び製品が102,176千円増加したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,948千円減少し、2,894,545千円となりました。これは、投資その他の資産が46,376千円減少し、有形固定資産が43,714千円増加したこと等によります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,104,167千円増加し、5,411,814千円となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が254,832千円、電子記録債務が161,936千円、短期借入金が576,892千円増加したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ96,231千円減少し、480,042千円となりました。これは、主に長期借入金が65,138千円減少したこと等によります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ30,244千円増加し、3,099,075千円となりました。これは、主に利益剰余金が192,173千円増加し、自己株式の取得を130,649千円行ったこと等によります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当社グループでは、リサイクル新商品に関する研究開発活動を行っており、当第3四半期連結累計期間の研究開発費は11,973千円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年5月20日)	提出日現在 発行数(株) (2020年7月3日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,725,000	5,725,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であり ます。
計	5,725,000	5,725,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年5月20日		5,725		294,675		663,325

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年2月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,721,500	57,215	
単元未満株式	普通株式 700		
発行済株式総数	5,725,000		
総株主の議決権		57,215	

- (注) 1. 「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式86株を含んでおります。  
 2. 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2020年2月20日)に基づく株主名簿による記載をしておりません。

【自己株式等】

2020年2月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ケイティケイ株式会社	名古屋市東区泉 二丁目3番3号	2,800		2,800	0.05
計		2,800		2,800	0.05

- (注) 2020年2月21日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得等の結果、当第3四半期会計期間末日現在の自己保有株式は357,800株となっております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2020年2月21日から2020年5月20日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年8月21日から2020年5月20日まで)に係る四半期連結財務諸表について、五十鈴監査法人により四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,096,942	2,286,890
受取手形及び売掛金	2,366,863	3,080,581
商品及び製品	444,016	546,193
仕掛品	784	530
原材料及び貯蔵品	68,059	90,329
その他	86,724	101,816
貸倒引当金	7,132	9,954
流動資産合計	5,056,259	6,096,388
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,116,543	1,150,441
その他(純額)	513,906	523,723
有形固定資産合計	1,630,450	1,674,164
無形固定資産		
のれん	74,051	69,779
その他	26,355	31,341
無形固定資産合計	100,407	101,120
投資その他の資産		
その他	1,206,516	1,160,664
貸倒引当金	40,879	41,403
投資その他の資産合計	1,165,636	1,119,260
固定資産合計	2,896,494	2,894,545
資産合計	7,952,753	8,990,933

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年8月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月20日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	1,511,448	1,766,281
電子記録債務	1,306,158	1,468,094
短期借入金	973,897	1,550,789
未払法人税等	77,399	85,149
賞与引当金	91,707	97,877
役員賞与引当金	10,850	
その他	336,186	443,622
流動負債合計	4,307,647	5,411,814
<b>固定負債</b>		
長期借入金	223,743	158,605
役員退職慰労引当金	66,671	52,801
退職給付に係る負債	120,479	122,030
その他	165,380	146,606
固定負債合計	576,274	480,042
負債合計	4,883,921	5,891,857
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	294,675	294,675
資本剰余金	663,325	663,325
利益剰余金	2,007,007	2,199,180
自己株式	1,282	131,932
株主資本合計	2,963,725	3,025,248
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	105,106	73,827
その他の包括利益累計額合計	105,106	73,827
純資産合計	3,068,831	3,099,075
負債純資産合計	7,952,753	8,990,933

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年8月21日 至 2019年5月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年8月21日 至 2020年5月20日)
売上高	12,573,530	12,698,630
売上原価	9,971,401	10,063,141
売上総利益	2,602,128	2,635,489
販売費及び一般管理費	2,324,114	2,322,457
営業利益	278,014	313,031
営業外収益		
受取利息	165	452
受取配当金	13,497	13,800
仕入割引	29,346	27,017
受取家賃	39,167	32,831
その他	5,283	9,976
営業外収益合計	87,460	84,078
営業外費用		
支払利息	6,039	5,783
売上割引	46,804	49,486
その他	10,327	9,047
営業外費用合計	63,170	64,317
経常利益	302,303	332,792
特別利益		
投資有価証券売却益		32,822
負ののれん発生益		6,039
特別利益合計		38,861
税金等調整前四半期純利益	302,303	371,654
法人税、住民税及び事業税	102,855	131,898
法人税等調整額	8,431	15,360
法人税等合計	94,424	116,537
四半期純利益	207,879	255,116
非支配株主に帰属する四半期純利益		
親会社株主に帰属する四半期純利益	207,879	255,116

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年8月21日 至 2019年5月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年8月21日 至 2020年5月20日)
四半期純利益	207,879	255,116
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	36,350	31,279
その他の包括利益合計	36,350	31,279
四半期包括利益	171,528	223,837
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	171,528	223,837
非支配株主に係る四半期包括利益		

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社青雲クラウンが、株式会社エス・アンド・エスの全株式を取得し子会社化(当社の孫会社化)したことにより、同社を連結の範囲に含めております。

なお、当第3四半期連結累計期間は貸借対照表のみを連結しております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当第3四半期連結累計期間(自 2019年8月21日 至 2020年5月20日)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法について、従来は主として定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

当社における「ktkイノベーションプランVer.2」による投資の増加や連結子会社の基幹システムの改修等を契機として、有形固定資産の使用状況等の調査をした結果、当社グループの有形固定資産は、今後も耐用年数にわたり安定的な稼働が見込まれることから、耐用年数にわたり均等額の費用が計上される定額法に変更することが、経済的実態をより適切に反映する合理的な方法であると判断するに至りました。

この変更により、従来の方と比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ6,748千円増加しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結子会社の当第3四半期決算日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年8月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年5月20日)
受取手形	千円	9,379千円
支払手形	千円	29,223千円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

連結子会社である株式会社青雲クラウンの業績は、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当第3四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年8月21日 至 2019年5月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年8月21日 至 2020年5月20日)
減価償却費	50,889千円	45,601千円
のれんの償却額	4,272千円	4,272千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年8月21日 至 2019年5月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年10月2日 取締役会	普通株式	57,221	10	2018年8月20日	2018年10月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年8月21日 至 2020年5月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年10月3日 取締役会	普通株式	62,943	11	2019年8月20日	2019年10月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2020年2月21日開催の取締役会決議に基づき、自己株式355,000株の取得を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において単元未満株式の買取を含め自己株式が130,649千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が131,932千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業セグメントは、サプライ事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年8月21日 至 2019年5月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年8月21日 至 2020年5月20日)
1株当たり四半期純利益	36円32銭	45円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	207,879	255,116
普通株主に帰属しない金額 (千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (千円)	207,879	255,116
普通株式の期中平均株式数 (株)	5,722,136	5,614,591

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年7月3日

ケイティケイ株式会社  
取締役会 御中

五十鈴監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	太田	豊	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	西野	賢也	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているケイティケイ株式会社の2019年8月21日から2020年8月20日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2020年2月21日から2020年5月20日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年8月21日から2020年5月20日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ケイティケイ株式会社及び連結子会社の2020年5月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。